

エンジン01文化戦略会議オープンカレッジ in 鳥取 開会式における知事あいさつ

日時：平成24年3月23日（金）午後1時～

会場：とりぎん文化会館梨花ホール

皆さま、こんにちは。

本日は、エンジン01文化戦略会議オープンカレッジ in 鳥取に、本当に大勢の皆様にご来場いただきまして、誠にありがとうございました。心から感謝を申し上げたいと思います。

そして、和田大会委員長様、また林真理子実行委員長様はじめ、エンジン01の関係の皆様、大勢の文化人、有名な方々に対しまして、鳥取へのご来県、心から歓迎を申し上げますとともに、感謝申し上げたいと思います。そして、この大きなプロジェクトをここまで導いてくださった桶谷実行委員長様、また山根副実行委員長様はじめ、若い鳥取の関係者の皆様、またそれぞれの団体、地域の皆様のご尽力に感謝を申し上げたいと思います。

竹内市長、中西議長、また明日の大学でございますけれども、学長、理事長もお越しでございますけれども、多くの皆様の力をひとつに結集して、何とかです明日、明後日までこの大会でございますが、成功へと導きたいと思います。皆様の厚い、厚いご支援を賜りたいと思います。

竹内市長も中西議長もですね、昨日まで忙しかったんですけども、今日のこの大会のために、わざわざ市議会を収めて、今日この席に座っておられる。本当に敬意を表したいというふうに思います。

それはともかくといたしまして、これから繰り広げられます様々なお話、あるいはミュージックパフォーマンス、いろんなことがあると思います。普段触れられないシーンに皆さんは出会うことができます。

また、県内だけでなく、今日は県外からもお客様がいらっしゃっておられると思います。残念ながら松葉ガニの季節は終わりかけておりますけれども、まだ迷いガニがいますので、探していただければ、その辺にいるかなあというふうに思いますし、豆腐ちくわとかですね、らっきょうだとか、そうした産物がございます。ただ一人で、ここで大会を楽しむのではなくて、喜びは皆さんでお分けしていただくように、両手いっぱいのお土産を買って帰っていただきますように、主催者として財政難でございますので、少し呼びかけをさせていただきたいというふうに思います。

今日、和田委員長のほうからですね、鳥取は美味しいものが多いから文化的なところですね、という話がありました。また、「砂上の実論。」というすばらしいキャッチコピーもエンジン01で考え出して、今回、出していただいた訳であります。実は、鳥取は砂丘であります、その砂丘っていうのは、文化芸術のふるさとでもある訳ですよ。岡野貞一の「ふるさと」という歌はもちろんでありますけれども、今日読売新聞のトップニュースと言いますか、一面の記事の中でこんな行がありました。

安部公房は、実はノーベル賞を取りかけていた。残念ながら、今から20年近く前に他界をされ、いまや天上の人となられた訳であります。その代表作に「砂の女」という小説がありますし、劇にもなり、映画にもなった訳であります。安部公房さんは全国の砂丘地を歩かれました。その時に、昭和36年、鳥取県の砂丘のほうにも来られておられます。実は、鳥取県には乾燥地研究センターという砂丘研究のメッカがございます。ワールドセンターと言ってもいい、世界と結ばれているところがございますが、こちらのほうをお訪ねになりまして、砂はどういう風に飛ぶのか、あるいは砂の中で水が湧く、それも清冽な水が湧くということ調べて、ご夫婦で帰えられておられます。実際、小説の中でも、砂の穴の底のほうから水が湧いているという話が出てきたり、正確な砂の飛び方の描写が出てくる訳であります。

「浜坂の遠き砂丘の中にして侘びしき我を見出つるかな」というふうに有島武郎が謳い上げ、有名になった鳥取の砂丘であります。その砂丘の素晴らしい景観の中から、大きな力をこの大会で呼び起こしていただきたいと思います。

時あたかも、3月11日東日本大震災から数えて1年余りとなりました。私たちは心をひとつにして、この災禍を乗り越えていかなければなりません。もう一度日本を元気で安心して住めるふるさとに変えていかなければならない訳であります。そのためには、多くの力を必要としていると思います。お集まりの

文化人の方々、各界の有名な方々、さらにここに集いし市民・県民、また県外の方々、みんなでこの国を蘇らせよう。その誓いをたてるべく、「砂上の実論。」を議論していただきたいと思います。

鳥取砂丘の名物、風物として「風紋」があります。この風紋がどうして生まれるかということをご存知でしょうか。この風紋が生まれるのは、風速5mの風が吹いてこそ生まれる訳であります。砂は一粒、一粒飛んでいきます。その飛び越える中で、あの風紋の小さな山ができる訳です。長いもので幅が12センチまでなる訳であります。その風紋は刻々と姿を変える訳です。なぜなら、砂が飛びながら風紋の姿は変わっていくし、作られていきます。もっと強い風が吹くことがあります。台風のシーズン、大雨が降り、秒速12m以上の風が吹くようなことになると、砂柱（さちゅう）という自然の芸術品が出来上がります。貝殻だとか、風除けになりまして、そのよけた風の先に高さ数センチ、長さ25センチほど柱が並行にいくつもできてくるんです。こうした自然の砂丘が生む造形品というのは、一粒、一粒の砂がみな力を合わせてできるものであります。大いなる風を受けてできるものであります。

いま日本は激動の中、大変な強風が吹き荒れています。だからこそ私たちは風を受けて、それをものともせず風紋をつくり、砂柱をつくる。そんな「砂上の実論。」を語っていきたいと思います。

今日・明日・明後日、この3日間、鳥取に我々が集ったことが、これからの日本の明るさを取り戻す光明になればと念じてやみません。被災地で今も震えておられる皆様の幸せを願い、そしてお集まりの皆様のご健勝とご多幸、大会の成功を祈りまして私の方からのお礼に代えさせていただきます。

どうも、ありがとうございました。